
闇と男

たけっちー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇と男

【Zコード】

Z6541A

【作者名】

たけつちー

【あらすじ】

女の娘の下敷きを一人で探していると、突然田代がつぶやいた。
『別にいいじやん。そんなもん無くたって。』女の娘の反応は？

第一話、思い出

女の娘

「…ありがとう。」

女の娘は田のすぐ横の涙を手で拭つた。
に大切なもののかな?」

「その下敷きって、どんなやつ?」

田代は耳をほじりながら言った。

「…ピンクの、スケルトンの下敷きで、友達の寄せ書きがいっぱい
書かれてある。」

田代

「へえー。」

田代はテキトーにうなずいた。

「どこで落としたの?。」

田代はフツーに聞いた。 女の娘

「…分かんなこよ。」

田代

「じゃあ、今日はどうここに行つた?。」

田代はうつむいたまま言った。

女の娘

「…えっと、この道を通りて図書館に行つたの。」

田代

「…じゃあオレはこの道を通りて、図書館の方探してくる。」

そう言つて田代は図書館への道を歩いていった。

「…すいぶん下敷きを探しただろうか、
辺りはすっかり暗くなつていた。」

そして田代が自分の時計を見てみると、8：53と示していた。

田代(やつべー、渡鬼始まつちやつよー)。

田代はそう思い、図書館にきた道を走つた。ちなみに田

代の家から図書館は、歩いて十分ほど の距離である。

女の娘（… もう二、三時間。

の人まだ探してくれてんのかな？ もう一時間は経つてるよ。）

女の娘はまだ下敷きをあきらめ切れず、公園の茂みなどを探している。 田代

「どう、見つかんない？。」

女の娘が真剣に探していると、向こうから田代

が自分のケツをかきながらこっちへ向かって来た。 女の娘

「うん…。こんな時間までありがと。あとは私一人で探すから…。」

「 そう言つて女の娘はまた茂みを探しあげた。 田代

「…いいじゃん。」

女の娘

「えつ…。」

田代のつぶやきが女の娘の耳に入り、女の娘は少し動きが止
まつた。 田代

「別にいいじゃん。そんなもん無くたつて。必死こいて探すもんじ
やねえだろ？。」

田代はつづけんじんに言つた。 「

女の娘

「どうして…。」

女の娘は弱々しくつぶやいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6541a/>

闇と男

2010年10月9日13時56分発行